

◆ 『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュースレターNo.7 (2013年1月号) ◆

謹賀新年。購読会員の皆さま、遅ればせながら新年のご挨拶を申し上げます。本年最初のニュースレターは第7号となりました。今後も「Intelligence」会員専用ウェブサイトとあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。なお、購読を継続されている会員の中で9月からの新年度の会費を納入されていない方は、お早めにお納めいただきますようお願い申し上げます。

【12月NPOインテリジェンス研究所主催、20世紀メディア研究所共催、第一回諜報研究会研究会の概要】 (12月22日午後2時半～5時半) 司会：土屋礼子

・白井久也「日本防諜から見たゾルゲ事件」：元朝日新聞記者で現在は日露歴史研究センターの代表として、長年ゾルゲ事件について研究を重ねてこられ、『ゾルゲ事件の謎を解く』(2008年)をはじめとする多数の著書を発表されている白井氏は、ゾルゲ事件の背景にある世界情勢や刑事法制や憲兵組織の説明、「ラムゼイ機関」の発足、ゾルゲ事件に至る過程を論じて下さった。報告の後には活発な質疑応答が行われた。

・山本武利「参謀本部編『諜報宣伝勤務指針』について」：先頃、NPOインテリジェンス研究所が電子書籍として発表した『諜報宣伝勤務指針』は、『日本陸海軍の情報機構とその活動』の著者である有賀傳氏から山本武利氏が1999年頃に寄贈されたタイプ版の資料を活字化したもので、まずデジタル化の作業過程について説明があった。本資料はかつて参謀本部第二部、陸軍駐在武官及び陸軍中野学校で用いられた軍事極秘扱いの情報原則書であったというが、この資料がどのような指示により作成され使用されたかを、各証言から探り、また注目すべき内容を山本氏は解説して下さいました。なお、デジタル版は、<http://bccks.jp/bcck/108231/info> をご覧下さい。

・太郎良譲二「陸軍中野学校創立時の不可思議」：陸軍中野学校卒業生及び関係者を父に持つ者の会である「中野二誠会」会長の太郎良氏は、終戦後の中野学校卒業生・関係者の資料、中野校友会の発足、中野学校校史『陸軍中野学校』の発行目的の編集方針について、貴重な証言をして下さいました。また、アジア歴史資料センター公開資料と校史との不整合についても論じて下さいました。

※なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされています。

<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html>

(閲覧は『Intelligence』の購読会員に限定されています。)

●次回1月の研究会は、1月26日(土)午後2時半から、蔡宜静、ピーター・オコーノ、有馬哲夫の三氏にお話し頂く予定です。それ以降の2013年の予定は、2月がお休みで、3月は30日(土)、4月は27日(土)、5月は25日(土)の予定です。また、ご報告御希望の方は、20世紀メディア研究所事務所まで、メールにてご一報下さい。m20th@list.waseda.jp

【気になる新著や記事の紹介】 [敬称略]

山田健太『言論の自由－拡大するメディアと縮むジャーナリズム』（ミネルヴァ書房）は、「変貌する記者クラブ」など、近年のメディアの変化を論じる好著。佐伯順子『明治〈美人〉論-メディアは女性をどう変えたか』（NHK ブックス）は、様々な女性の姿が明治期の新聞雑誌でどのように取り上げられ、また女性の生き方を変えていったのかを論じている。

【今月のコラム－ダニエル・ケン・イノウエ氏の死去】

昨年末 12 月 17 日に米国上院議員ダニエル・ケン・イノウエ氏が 88 歳で死去した。ホノルルで生まれた日系二世で第二次大戦中は日系人部隊の第 442 連隊戦闘団に所属し、戦闘で右腕を失った。1959 年にハワイ州から米国初の日系下院議員となり、さらに上院議員となり 50 年間務めた。1973 年にはウォーターゲート事件を調査する上院特別委員会で活躍。中央情報局（CIA）の活動を調べる上院情報特別委員会が 1976 年に設置された際には初代委員長となった。死去に際してオバマ大統領などが声明を発表し、議事堂で追悼式典が開かれた。アジア系アメリカ人が得た地位としては最上位に登ったという氏の死去は、日米関係における日系人の一つの時代の終わりを感じさせた。

[1 月 20 日付文責：土屋礼子]